上田八木短資

ウィークリーシグナル

2026年10月2日

<来週の資金需給予想とイベント予定>

（単位：億円）

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/5 (月)	＋ 900	＋ 9,300	＋ 10,200	国庫短期証券発行償還（3M）			日：消費者態度指数(9月) 米：ISM非製造業総合景況指数(9月) 欧：ユーロ圏PPI(8月)
10/6 (火)	＋ 300	＋ 2,000	＋ 2,300				米：貿易収支(8月)
10/7 (水)	＋ 200	▲ 26,000	▲ 25,800	国債発行（10年）			米：FOMC議事要旨(9月15、16日開催分)
10/8 (木)	トン	＋ 1,000	＋ 1,000				日：日銀支店長会議 地域経済報告（さくらリポート）公表(10月) 国際収支(8月) 欧：ECB議事要旨(9月開催分)
10/9 (金)	トン	▲ 6,000	▲ 6,000	国債発行（30年）			

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3,400億円増加の417兆9,800億円から始まった。その後、各種財政資金の貸付金回収や国債発行、法人税、消費税、保険揚げ等の要因により減少し、2日は410兆5,400億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、1.227%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W～3W物1.20%～1.40%のレンジ、1M～3M物1.24%～1.65%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では8日に日銀支店長会議が開催、地域経済報告(さくらリポート、10月)、国際収支(8月)の公表、海外では6日に米貿易収支(8月)、7日にFOMC議事要旨(9月15、16日開催分)、8日にECB議事要旨(9月開催分)の公表などがある。

［無担保コールレート］

	予想レンジ（%）
O/N	1.220 ～ 1.228
1M	1.30 ～ 1.45
2M	1.35 ～ 1.45
3M	1.45 ～ 1.55
6M	1.60 ～ 1.75

［オープン市場］

	予想レンジ（%）
現先（on/1w）	1.2台前半
CP 3M（a-1+）	1.4~1.5台

<レポ>

足許GCは週を通して1.250%～1.255%の狭いレンジでの出合いとなった。四半期末を跨ぐ取引や短国の発行の影響はほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年484～488回債、5年180~187回債、10年361~372、379~383回債、20年194~197回債、30年87~91回債などに引合いが見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は2兆5,010億円で、週間償還額の3兆7,080億円を下回った。発行残高は、先週末時点の25兆1,418億円から、10月1日時点で23兆7,213億円へと減少した。発行市場では、不動産・機械・食料品をはじめとする一部の業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.2%台後半から1.3%台、3ケ月物で1.4%台から1.5%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆5,000億円となっている。発行市場は、期明けの発行再開に伴う大型発行が見込まれることから、活況なマーケットが見込まれる。発行レートは、次回の利上げ時期を見極めようとする動きから、水準を探る展開となるだろう。

<TDB>

2日の3M（第1410回債）の入札は、最高落札利回り1.2875%（前回債1.2709%）、平均落札利回り1.2793%（前回債1.2555%）となった。

来週の入札は8日に6M、9日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社　登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243号　加入協会 日本証券業協会